－所蔵作品紹介－

百瀬　寿　MOMOSE Hisashi
Square-Between Pink and Yellow

作品データはこちら

百瀬寿は札幌市に生まれた。1963年北海道教育大学旭川校に入学、同校で根守悦夫にリフト・グランド・エッチングを学び、油彩画とともにカラー・エッチングを手がけた。卒業後、岩手大学専攻科に進み、以降今日まで盛岡市で活動を続けている。1969年、油彩画で初個展を開くが、その後知人の勧めで始めたシルクスクリーン技法により、個性的な版表現の世界を開拓して行った。

70年代を通じて確立された彼のスタイルとは、正方形の画面をいくつかの矩形に分割し、そこに色彩のグラデーションを作り出すというものである。このグラデーションに光の変化や時間の経過を思い起こさせる百瀬作品の豊かさの秘密があるのだが、グラデーションを生む原理は実はとても単純だ。シルクスクリーン版画ではスクリーンにのせたインクをスキージー（シルクスクリーンの印刷用具）で紙に押し出して印刷するのだが、インクを延ばすと色の濃い部分と薄い部分ができる。作者の主観を制作の要におく立場からすれば、この濃淡は素材と手法の必然的結果である一現象に過ぎない。しかしそれを色彩表現に直結させた時、百瀬の飛躍が始まったのである。妙な言い方かもしれないが、百瀬とはミニマルなコロリストではないだろうか。

1980年代にはいると、彼はエアーブラッシとスキャナグラフ（ネコ・プリント）も制作に取り入れるようになった。いずれも直接手で描くことを拒否した点で版画と共通する技法である。ここにあげた作品はエアーブラッシによるもので、第20回シェル美術賞展で３席受賞となった。80年代半ば以降は和紙やネパール産の手漉き紙を支持体に取り入れ、表現の幅をいっそう拡張している。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より